



みんなで元気にボール遊び (あまぎ認定こども園)

「ウイズ・コロナ」

あまぎ認定こども園 園長

関本 光泰

H・G・ウェルズが1898年に発表したSF小説『宇宙戦争』をご存じでしょうか。20世紀の初めに火星人が地球を武力で侵略する様子が、英国人男性による回顧録の形で書かれた作品であり、SF作品の古典的名作として知られています。2005年にはスピルバーグ監督がトムクルーズ主演で映画化しているのでご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

物語のあらすじは、圧倒的科学的力を持ち、最新兵器で武装した火星人が人類を追い詰めます。しかし、あと一步のところまで彼ら火星人は免疫をもたない地球のバクテリア(細菌やウイルス)に感染して死んでしまい、人類は危機一髪で救われます。

「地球に攻め込むほどの科学的力をもつ火星人が細菌やウイルスのことを想定していないわけないだろう!」と突っ込みたいたいところではありますが、実際今から50年以上前のアポロ11号の時ですら、宇宙飛行士は検疫のため地球帰還後、21日の隔離生活を送っています。

さて本題です。新型コロナウイルスに感染した方が日本国内で初めて確認されたのが2020年の1月15日。この原稿執筆時で既に2年5ヶ月が経とうとしています。その間感染症の影響が特に大きい方たちをお預かりしているわたし達は、気の休まる間がありませんでした。それとともに利用者の皆さんにも様々なご不便をお掛けしています。

例えばわたしの勤務するこども園では感染防止対策のため、職員は全員マスクをしているのは当然ですが、マスクを外さざ

るを得ない食事時は園児と離れ、別室で食事をとっています。ですからコロナ以後に入園した、特に3歳未満の子ども達は、先生の素顔を一度も見たことがありません。身近な人の表情から様々なことを学んでいるはずのこの時期にそれができないことが、後々どのような影響を子ども達に及ぼすか大変心配です。

幸い未就学児のマスク着用は必要ないとの見解が国から出されたので、現在園では子ども達はマスクをしていません。少なくとも子ども達同士がお互いに表情を見ることができ環境にはなっています。

新型コロナウイルスを完全に制圧するのは恐らく不可能だと思います。ちなみに人類が地球上から撲滅できた最初の、そして現在のところ唯一の感染症は天然痘で、それ以外にはありません。冒頭の「宇宙戦争」の結末のように、人類はその誕生以来細菌、ウイルスと共存してきました。

ゴールデンウィーク以後の観光地の人出を見ると出かける側も受け入れる側も感染対策をした上で、少しずつ以前の生活に戻ってきているように思います。早く園でも以前の生活が戻ってきて欲しいところです。

感染症の流行時期に徹底した対策をすることは今までもしてきましたし、今後もしていくことはいまでもありません。しかし、現在の状況がいつまでも続き、「園児が先生の素顔を一度も見ることなく卒園していった」ということがないことを切に願います。

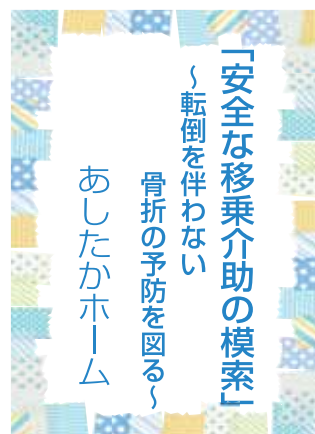


令和四年五月十六日(月)
沼津プラサヴェルデにおいて第二十五回法人合同職員研究発表会が開催されました。今年もコロナウイルス感染拡大防止を考慮し、参加者を副主任以上の役職者に限定して行いました。

はじめに石川理事長が、「私たち春風会は、設立当初から福祉に対する篤い情熱と信念、あるいは想いを持って運営してきた。この

研究発表会も、その福祉に対する崇高な精神を受け継ぎ、弛まぬ努力、創意工夫、向上心、研究心を持って福祉サービスの改善や介護の専門性向上に努めてほしいという想いで始めたもの。そして研究やサービスの向上を通して、法人職員の高いモチベーションを維持し、地域福祉のために貢献できるようにこれからも取り組んでほしい。」と挨拶されました。

特別表彰・勤続表彰に続いて、各施設職員による九題の研究成果が発表され、今回は優秀賞三題が選ばれました。その優秀賞三題を紹介させていただきます。



特別養護老人ホームは平成二十七年から入居要件が原則要介護3以上になり、重度の方の割合が大きくなっていきます。あしたかホームでも平均要介護度が高くなり、身体介護技術の重要度が上がっています。その中で、転倒していない方に下肢の痛みが出現して受診したところ骨折しているという、原因不明の介護事故が数件挙がるようになりました。要因と対策について多職種で検討するなかで、骨折リスクが高い方に共通する既往歴や移乗動作についての予測が挙がったため、予測に対する検証と移乗介助時の注意点についてまとめました。

調査したところ、転倒を伴わない骨折をした方に共通する要素として、「骨粗鬆症または骨折歴がある」「麻痺を伴う疾患がある」「移

乗時に足の踏み替えができない」の三つが強く関係しているという結論に至りました。骨粗鬆症という診断を過去に受けていなくても現在骨が紙のように薄いと指摘された方がいらつしたため、今までに骨折した経験のある方も骨折リスクが高いと判断しました。また、麻痺や能力低下により足の踏み替えができないと、移乗時に足がねじれた状態で取り残されてしまうことで骨折を招くと考えられます。

三つの要素を踏まえて移乗方法を見直したところ、骨折事故を防止でき、整形外科の受診件数も大きく減少しました。利用者の安全確保に繋がっただけでなく、介助方法の統一や介護士の不安軽減を図ることができました。今後の課題としては、緩やかに身体能力が低下した場合に変化に気付く仕組みづくりや、二人介助が多くならないように福祉用具や介護ロボットを活用していくことが挙げられます。今回の取り組みを共有することで、法人全体の介護事故や骨折の減少に繋がっていききたいと思います。



「小規模多機能は最期まで？」
 ～神谷に帰りたいーさんが教えてくれたこと～

プレーゲあしたか
 小規模多機能型
 居宅介護支援事業所

『住み慣れた家で、大切な人の傍で最期を迎えることがどれだけ幸せか』施設や病院で看取ることが当たり前のこの時代、在宅サービスである私たちが、「在宅での看取り」というとても貴重な経験をさせて頂きました。自宅でも施設でも24時間途切れないよう、さらに看取りを見守るご家族への心

の支援も含め、小規模多機能ならではの柔軟性、特性、そして「なじみの関係」を存分に発揮したことがよい取り組みに繋がったと思います。東部地域小規模多機能他事業所へのアンケート調査や看取りの振り返りからはまだまだ小規模多機能の制度が理解されていないと認識できました。今後に向け、私たちの制度の良さや看取りの実績を見える化

として発信し「看取りまで支援できる」プレーゲあしたか小規模多機能として在宅での様々な暮らしの在り方に柔軟に即時対応ができるように努めていきます。在宅サービスとの要として

て当たり前前の日常を当たり前に支援できるONEチームであり続けたと思います。



「夢中になって遊ぶ子」
 ～言葉を仲立ちにして～
 なかいず認定こども園

なかいず認定こども園では「夢中になって遊ぶ子」言葉を仲立ちにして～を研究テーマに職員誰かが気軽に楽しく、学びある研究にするため園内公開保育や事後研修会、園内研修などを進めてきました。

職員全員で研究に取り組むことでチーム力の向上も目指しました。研究を始めた当初は子ども達の言葉や仕草から遊びを発展させることが難しく感じましたが、保育を公開し様々な意見交換を重ねていくと子ども達が夢中になって遊ぶようになり、その遊びの中から多くの非認知能力が育つことが分かりました。

また、職員同士が自分

の保育や子ども達の成長を語り合う機会が増え、保育(仕事)に意欲的になりました。保護者からも子ども達が楽しんで園生活を送っているとの声が届いています。これからも、非認知能力への学びを深めたり、子ども一人一人の特性に合った保育を意識したりすることを課題に職員全員で研究に取り組み続けたいと思います。





プレーゲあしたか施設長
宮代 直人

大学卒業後、春風会に入社し25年が経ちました。あおばの家からスタートし老人デイサービス、特養相談員、新規事業建設準備室等と様々な経験をさせていただき、この春より、プレーゲあしたかの施設長をさせていただくことになりました。入社当初よりBMIは倍になり、体力と頭の毛は半減し、最近では五十肩に悩まされ、時代の流れを感じる今日この頃です

↓
25年前(入社当初)



…時代が変わっても、福祉にはいつの時代でも変わらない・変えてはいけないことがあると思っています。そのうちの一つは、相手の立場になりチームとして支援することです。25年前から今日まで、ご利用者、ご家族、先輩・同僚から教えていただいたことを胸に刻み、初心を忘れずに職員と共に一緒に考え取り組んでいきたいと思っています。



沼津市立高尾園施設長
川口 浩史

本年四月より沼津市立高尾園施設長として赴任しました、川口浩史です。福祉や介護について全く無知なバンドマンが春風会に入職して早二十余年。入職当時、三十路手前の若者は、薄毛が気になる小さいおっさんになりました。

私はこれまで、認知症ケアについて、特にご本人を中心にしたケアについて理解を深めてきました。高尾園には精神疾患をお持ちの方が多く入所されており、いかに私の知識や経験を活かしていくか思案中です。これからも、これまで関わって下さったご利用者とご家族、諸先輩方をはじめとする職場同僚の皆さんから教えていただいたことを胸に、職員と一緒に元気に楽しく仕事をしていきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。



新施設長の紹介

春風会では令和4年4月の組織改革により4名の新施設長が赴任しました。



みはるの丘浮島施設長
長田 直樹

みはるの丘浮島の施設長に新任しました長田直樹と申します。

私は、中途採用にて法人に就職し、みはるの丘浮島の開所時にショートステイ勤務、以降デイサービス、居宅介護のケアマネジャーを経て、昨年事務長職を担当させていただきました。当施設は特養と各在宅サービス、ケアハウス併設の浮島地区に初めて大きな施設として開所しました。開設以来、多くの地域の方に利用していただき、またボランティアの方も多く来園いただき、地域の方に支えられて運営することができたことに、大変感謝しております。施設も今年度は開設十九年目を迎えます。更なるサービス向上を目指して、経験不足で至らない点もありますが、職員一丸となって頑張っていますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



プレーゲおおひと施設長
深沢 康久

本年四月より、プレーゲおおひと施設長として赴任しました深沢康久です。私が、伊豆の国市で働かせて頂くのは、平成7年にぬくもりの里が開所した年から3年間、ソーシャルワーカーとして在宅福祉を中心に仕事をさせて頂いて以来、二十五年ぶりになります。当時、在宅で生活をされている要援護者の高齢者や介護者へのご支援のため、まだまだ経験の浅い私に対し、地域住民の方や行政機関の方、社会福祉協議会の方など、たくさんの方々にご支援やご協力を頂いたことを、今でも大変感謝しております。その時の恩返しではありませんが、今後の伊豆の国市の福祉の発展に全力を尽くして参りたいと考えております。

今後とも、ぬくもりの里やプレーゲおおひとの事業に対して、ご理解やご協力等、どうぞよろしくお願ひ致します。



新たな仲間たちを迎えて

新規採用された皆さんへ

社会福祉法人春風会 理事長 石川 三義

この2年間、コロナ禍において介護職員や看護職員あるいは保育教諭に対する評価が大幅に変わりました。これまでは旅行・観光業や保険・証券関係、飲食を中心とするサービス業など華やかな仕事が注目されてきました。しかしこのコロナ禍でそれらの業界の中には大幅に事業を縮小したり、中には廃業に至った企業もあります。私たちの福祉・介護・保育という仕事は、人々が日常生活を営む上で、絶対に不可欠な仕事であり、本質的な仕事であります。この2年の間で、初めて私たちの仕事が評価をされたと思います。私たちの仕事は本当に人に誇れる仕事です。春風会は法人創設46年を迎えます。これまで法人は、利用者や地域住民、行政機関の負託に応え信頼を得て来ました。皆さんも法人の職員として働くこと、そして社会福祉の仕事に就くことに誇りと責任と自信を持って取組んでいただきたいと思っております。皆さんのこれからの活躍を期待しております。

春風会では、令和四年四月一日に今年度採用の新規職員の辞令交付式を行いました。今年度の同日付け新規採用職員は学卒者十二名、中途採用者三名の計十五名です。式では全員に辞令交付が行われ、新規採用職員を代表し、あしたかホーム短期入所介護士として勤務する清水愛歌さんが代表挨拶を述べ、石川理事長からの訓示が行われました。



令和3年度 特別表彰・永年勤続表彰

伊豆中央ケアセンター関連エリア

- [20年]** 植松誉・久保田晶子・柏原健成・内田尚吾
鈴木ゆかり・保里真奈美・加藤友也・山屋けい子
齋藤喜美子・紅薫・酒井亨子・大川祐子・樋川千登勢
安藤久美子・風間牧・浅田幸久・松岡由美子
山崎貴子・三枝三重子 (以上19名)
- [15年]** 福田恵理子・伊東かずみ・森島真紀・内田峰代
正田京子・山下晶世 (以上6名)
- [10年]** 野中由美・伊藤美咲・川口照美・池田貴則
原美幸・齋藤佳也・小澤由季・浅田直子 (以上8名)

あしたかホーム関連エリア

- [30年]** 中村美雪
- [25年]** 宮代直人・羽切茜・大野陽子 (以上3名)
- [20年]** 渡邊富美子・内田倫子 (以上2名)
- [15年]** 高橋勇次・林雄介・山口法子・横尾由香
渡辺美加・大谷由紀子・眞田恵 (以上7名)
- [10年]** 杉山浩美・中村有美子・渡邊幹子・田邊正光
齋藤里美・石塚浩 (以上6名)

特別表彰者

春風会では多年にわたり施設の発展に貢献した職員に対し特別表彰を行っています。令和3年度は以下の2名を表彰します。



高遠郁子 (あしたかホーム)
渡邊壽子 (ぬくもりの里)

ぬくもりの里関連エリア

- [20年]** 長島浩子・萩原笑子・藤池史朗・内山誠
牧野卓真・堤一教・川口義和・佐藤明実 (以上8名)
- [15年]** 小川平・前田敏昭・石井良一 (以上3名)
- [10年]** 山田輝彦・小川花菜・川嶋真由美 (以上3名)

みはるの丘浮島関連エリア

- [20年]** 保坂さおり **[15年]** 長倉浩之
[10年] 秋山卓也・小畑将恵・セパリマヘシ・辻榮直美
(以上4名)

沼津市立高尾園関連エリア

- [20年]** 石原礼子 **[15年]** 山崎香
[10年] 鈴木聖史・大川みどり (以上2名)

トレーナーからの一言	入社してからの感想	福祉・春風会を選んだ理由	配属施設・氏名
<p>焦らず、回数をこなしていけば自然と出来るようになるので頑張っていきましょう。</p>	<p>学生の頃に2年位ブレーグあしたかでアルバイトをして色々な仕事を知りました。 今は、あしたかホームで働いています。アルバイトから社員になり、仕事の内容も変わりましたが頑張ります。</p>	<p>専門学校の先生から春風会を紹介してもらい春風会を選びました。</p>	 <p>あしたかホーム特養 スチ ラフマ ダニ</p>
<p>失敗や悩むことがあると思いますが、フォローをしていくので失敗を恐れず利用者とかかわりましょう。</p>	<p>様々な利用者様と関わる事が楽しく、先輩職員の方も優しく丁寧に指導して下さい毎日充実しています。</p>	<p>中学生の時、サマーショートボランティアに参加して、楽しく笑顔で働く職員方の姿を見て、「私もこの職員の方々のようになりたい。人の役に立つ仕事がしたい。」と思い福祉の仕事を選びました。</p>	 <p>あしたかホーム短期入所 清水 愛歌</p>
<p>仕事は慣れない事ばかりだと思いますが、何事にも前向きに一緒に頑張っていきたいと思います。</p>	<p>まだまだ覚える事ばかりですが、先輩職員の皆さんが丁寧に指導して下さいるので、やりがいを持って働いています。</p>	<p>栄養の面から利用者様の健康を支えたいと思いました。自分の口で食べる喜びを忘れないでほしいと思い福祉の仕事を選びました。</p>	 <p>あしたかホーム栄養 鈴木 美空</p>
<p>これから色々なことがあると思いますが一緒に良い施設を作っていきましょう。</p>	<p>大変な事や苦勞する事も沢山ありますが、やりがいのあるこの職に就いて知って学べる事ができて良かったです。</p>	<p>中学生の時、サマーショートボランティアにて福祉の仕事を知り福祉の仕事を選びました。</p>	 <p>ブレーグあしたか特養 山本 晃子</p>
<p>日々の業務お疲れ様です。大変なことばかりだと思いますが一緒に頑張っていきたいと思いますよ!</p>	<p>トレーナーの方や先輩職員の方々が優しく働きやすい環境です。馴染みのある場所で働くことが出来たので良かったです。</p>	<p>自宅が近所で学生の時から知っており、お年寄りとかかわることが好きで福祉の道を選びました。</p>	 <p>みはるの丘浮島特養 渥美 寿々</p>
<p>大きな声で返事ができて明るいです。一緒に頑張っていきたいと思いますよ!</p>	<p>日々、覚えることが多く戸惑ってしまう事も多いですが、先輩職員やトレーナーの方から丁寧に仕事を教えて頂き出来ることも増えてきました。これからも経験を積んで頑張ります。</p>	<p>小さな頃からあしたかホームで調理員として働いている祖母が楽しそうに会社へ行く姿に憧れ春風会を選びました。</p>	 <p>みはるの丘浮島栄養 杉山 愛唯</p>

新規採用職員の声

トレーナーからの一言	入社してからの感想	福祉・春風会を選んだ理由	配属施設・氏名
<p>失敗を恐れずに色々な事を経験し楽しく仕事をしていきましょう。成長が楽しみです。そして地域貢献できるように頑張ってください。</p>	<p>先輩職員に支えて頂きながら毎日楽しく仕事が出来ています。知識や技術を磨いていき、利用者さんに寄り添う介護を目標に頑張っていきたいです。</p>	<p>私は伊豆市の出身であり、地元で生活されている方々をお世話させていただくことで地域貢献ができると思い春風会を選びました。</p>	 <p>伊豆中央ケアセンター特養 笹川 大輝</p>
<p>仕事は大変ですが、是非やりがいを感じ、頑張ってください。</p>	<p>利用者様からの「ありがとう」がとても嬉しいです。利用者様に寄り添った介助を心がけていきます。</p>	<p>大学の先輩が春風会に勤めており、私も先輩のようになりたいと思い春風会を選びました。</p>	 <p>めぐもりの里 加藤 諒也</p>
<p>些細な事でも疑問に思ったこと、わからないことは、気軽に先輩職員に質問して下さい。</p>	<p>入社して1カ月半経ちますが、利用者様や先輩職員の皆様に支えてもらいながら、毎日楽しく勤めることが出来ています。</p>	<p>春風会はやりがいを感じることができると思うし、介護の仕事は楽しそうだと感じ福祉の仕事を選びました。</p>	 <p>めぐもりの里 斉藤 一法</p>
<p>最初は、失敗したり先輩に迷惑をかけてしまう事もあるかと思いますが、でもあきらめずに前に進み不安な事があったら先輩に相談して下さい。</p>	<p>職員の皆さんにサポートしていただけてやっと仕事に慣れてきました。精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。</p>	<p>介護施設の説明会に参加させていただき、春風会を知りました。地元にある春風会の施設に興味を持ち選びました。</p>	 <p>めぐもりの里 竹田 琳</p>
<p>色々な事にチャレンジしていきましょう。一緒に頑張りましょう。</p>	<p>大変な事や上手くいかない事も多いですが、利用者様からの「ありがとう」という言葉で達成感を感じます。</p>	<p>人助けをするという事を感じられる職業に就きたかったので福祉の仕事を選びました。</p>	 <p>プレーグおおひと 田口 真鈴</p>
<p>コミュニケーションを大切にしながらともに頑張っていきたいです。</p>	<p>覚える事が沢山あり、まだ慣れない事ばかりですが、一生懸命頑張っていきたいです。</p>	<p>今まで学んできたことを活かせると思ったことと、職場の雰囲気が良かったので春風会を選びました。</p>	 <p>プレーグおおひと 山田 麻由</p>



特別養護老人ホームにおける機能訓練の取り組み

あしたかホーム



体の衰えを防いでその人らしい生活を続けていけるよう支援することが目的です。

あしたかホームでの機能訓練

あしたかホームで実施している機能訓練は大きく分けて、「能力の評価と訓練」「生活指導」「環境調整」の3つです。施設ケアマネジャー・介護・看護・栄養など、利用者に関わる多職種でケアの方針を決めて、その方に必要な支援を行います。

①能力の評価と訓練

身体機能や動作能力の現状を把握して、生活上の課題に対して適した訓練を行います。

歩行できる方には押し車や平行棒を使用して歩行訓練を行います。臥床時間が長い方に対しては主に関節可動域訓練を行うことで拘縮を防止、衣類の着脱など手足を大きく動かす場面での介助量の軽減に努めています。他にも日中の活動量を上げるために、介護士主動で全身を使ったりハビリ体操や誤嚥防止のための口腔体操を行っています。

②生活指導

歩行困難な方に対して車椅子の自

走を促す、1人で移乗を行うと危険な方に対して適切な介助をするなど、自力でできることを生活の中で行っていたり、働きかけています。一部介助レベルの方に全介助で対応してしまうと利用者様の力を発揮する機会を奪ってしまうことになり、介助方法の統一に取り組んでいます。

③環境調整

ベッド上や車椅子上で褥瘡ができないようにクッションで体を支えたり、直接抱えて移乗するには負担が大きい場合に福祉用具やリフトを活用したりと、適切な用具を使用することで安全安楽な生活を提供しています。介護士に対しては、持ち上げない介護を実践するための移乗用具の提案をしつつ、導入しやすい介護ロボットがないか情報収集しています。

介護度が重度な方が多くなっていますが、少しの動作でも自力でできることを見つけて続けていただく、限られた時間でも安定して座っていただくなど、利用者に合った対応をこれからも多職種で考えて取り組んでいきます。

特養の入居要件が原則要介護3以上になったことで、転倒や褥瘡(床ずれ)のリスクが高い方が多くなっています。また、自力でできることを続けていくことが本人のためと思っただけでも、骨粗鬆症でその動作に骨や関節が耐えられずに痛みが出現することもあります。そのため適切な介助方法を考えるのに日々試行錯誤しています。

機能訓練とリハビリテーション

リハビリテーション(以下、リハビリ)という言葉の語源はラテン語と言われており、直訳すると「再びその人にふさわしい状態になる」という意味になります。リハビリ＝訓

練と思われがちですが、訓練はあくまでリハビリの一つの手段であり、他にも社会復帰や疾病予防など幅広い取り組みがあります。病院や介護老人保健施設などで医師の指示のもとで行われる訓練や治療をリハビリと言いますが、医師が常駐していない特養やデイサービスではリハビリという言葉を使うことができず、機能訓練という用語を代わりに使います。

リハビリと機能訓練はどちらも機能の改善を図るものですが、提供する場が異なるため目的も異なります。特養やデイサービスは生活の場です。訓練ばかりを行うのは適切ではありません。利用者それぞれのペースで過ごしていただいて、合間に訓練や体操などの機能訓練を行い、

コロナ禍を振り返って

伊豆中央ケアセンター

2020年1月頃より始まった新型コロナウイルス感染症。初めは他人事のように思っていました。同年5月に静岡県第1例目が発生し、それに伴ない危機感を抱くようになってきました。

徐々に新型コロナウイルスの正体が解って行く中で私たちに出来る感染対策を検討し、マニュアルの作成、感染者発生時シミュレーション訓練を行い、専門家に来園して頂きゾーニング指導を受けました。やはり一番大切なことは各自が感染対策を意識してマスク着用・手洗いや消毒を徹底することによって目に見えないウイルスと共生することではないでしょうか。

2021年に待望した新型コロナワクチン接種が始まり、利用者をはじめ職員も無事に接種でき、これでそろそろ収束に向かうかと思えば、ワクチンも生き延びるために型を

変えていきます。

いつ終わるがくるのだろうか、この生活にもストレスが溜まってきますが、高齢者を抱えている施設にウイルスを持ち込むわけにはいきません。なんとか利用者を守らなければと職員一丸となり、感染対策を継続させてきました。

2022年5月にショートステイ職員の陽性が明らかになりました。施設長をはじめ関係者が集合し、情報は一カ所に時系列にまとめていままでの訓練や知識をフル回転させて対応に当たりました。幸いなことに利用者や職員の2次感染はなく、終息しました。

これはこれまでの感染対策ができていた証であり、こんな危機的な状況の時は慌てずに対応していくことがとても大切であると、実際に体験してわかりました。

介護ロボットの導入

ぬくもりの里 入居

長期化する介護生活を支える、移乗サポートロボットHUG。

ハグはベッドから車椅子、車椅子から、お手洗いへといった座位間移動、脱衣場等での立位保持サポートをします。ベルト、スリングシート等を使わなくても倒れにくい構造で、簡単に直感的に使える移乗ロボットです。

ぬくもりの里ではこのハグをお手洗いでの立位サポートとして多くの方に使用しています。最初は職員も不慣れ、機械慣れない為不安もありましたが、今では小柄な女性スタッフでも1分から2分でハグを使ってサポートすることができています。

ハグの良いところは女性スタッフが1人で気軽に扱えます。特別な器具も準備も必要なく、狭い所でも楽に使えます。二人介助が1人で対応出来る上、抱える介護から解放され、介護士の負担が大幅に軽減される事です。利用者へのケアも素早く簡単・清潔に行うことが可能になりました。

利用者からも感謝の言葉をもら

っています。今後もこのハグを使って利用者を支えていけたらと思っています。



安心

楽々



みはるピクニック開催

施設開所当初より恒例行事となっていたみはる祭りは、新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から二年連続中止となっており、本年度も通常行事として実施することができなくなりました。

ここ二年間は、内容を変更し館内にて小規模での開催となり、お祭りという雰囲気味わうにはやや物足りない企画となっておりました。そこで、利用者に満足していただくためにコロナ禍三年目の今、何ができるか職員で話し合いを行いました。結果、これまでとは少し趣向を変え、外で好きな物を食べ思い切り気分転換をしてもらおう、という案にまとまり「みはるピクニック」と銘打って屋外にて開催することになりました。

まず初めに、全利用者より今食べたい物の聞き取りを行いました。中には、自分の意思を主張できない方もいましたが、ご家族に嗜好を確認することで対応しました。圧倒的にお寿司の

人気が高く、次いでうなぎなどが挙げられました。中には、マクドナルドのハンバーガーや牛丼、ピザ、たこ焼きなども挙げられ、全ての要望に応えることができませんでした。

当日は、五月の風と新緑の中、各々好きな物を食べ「ピクニック」を大いに楽しめました。中には、嚥下食の方がたこ焼きを召し上がり大変喜ばれる場面もありました。

まだまだ工夫が必要なコロナ禍ではありますが、今できる最大限のサービス提供と、実施できないことに慣れてしまった職員の意識を徐々にソフトチェンジしていきたいと思えます。



リモートでの圏域交流会

あしたか地域包括支援センターでは、年度始めに必ず、担当圏域の介護・医療の関係者が集まる交流会を実施しています。高齢者が要介護状態になったとしても、安心して生活ができる地域を作るためには、地元の介護・医療の関係者が日頃から良い関係を構築していることが基盤となります。一同に会する場を設けることで、お互いを「地元（愛鷹）を支える仲間」として意識し、皆で「また一年一緒に頑張っていこう。」という気持ちで新年度をスタートしたい、という思いで交流会を継続してきました。しかし、直近2年はコロナ禍で開催ができず、各事業所の情報を集約した冊子の配布で代替してきました。

圏域の皆様が研修等でリモート操作にも慣れてきた頃合と判断し、令和4年4月に初めて、リモート形式での交流会を開催しています。当日は、33事業所46名の参加がありました。

「包括からの連絡事項」「制度の改正点（福祉用具、リハビリ事業所からの説明）」等の内容

の合間に、参加者の自己紹介を行いました。

交流という点では難しさもありましたが、リモートだからこそその利点も感じました。話をする人が画面に大きく映し出されるため、顔や声がよくわかりました。また、外出する必要が無いため、業務時間内でも参加しやすいことから医療機関の参加が増えました。操作のトラブルが、かえって和やかな雰囲気を生む場面もありました。今後とも感染予防対策をしながらの活動が続きますので、リモートを上手に活用していければと思います。



施設外就労の成果に期待

今年の一月二十日から約二ヶ月間、もくせい苑による施設外就労では伊豆の国市小坂のピオーネ発祥の地『サン・ヴァンサンファーム』にて、ぶどうの木の皮剥き作業を行いました。

作業は、ぶどうの木の間に害虫が住みつかないように、草取り用の小型ねじり鎌にて、幹を中心に長く伸びる枝の先まで丁寧に皮剥きと皮の削り作業を行いました。

ぶどう園の木は、原木の樹齢60余年の木を始め、十数本もの木があり削り皮が目に入るのでゴーグルを付け、また、背中に粕が入り込む大変な仕事でしたが、利用者さん達は作業が楽しいと言いつつ一生懸命頑張ってくれました。

まだまだ寒さが厳しい季節に、丸裸になったぶどうの木に、本当に芽吹きぶどうの実が付くのか心配になった作業でした。

オーナーの加々見さんとお話げできました。

この「はるかぜ70号」が発刊される時期には、摘果作業や袋掛けを経て甘いぶどうの収穫が終わる頃になります。改めて、作業を提供していただいた加々見さんに感謝をすることも、貴重な原木と特産品を保護・継承をして頂きたいと思えます。



もくせい苑

アマゴの放流



なかいず認定こども園では、地域の方々とのふれ合いを大切にした活動を意図的に取り入れています。その中の一つが、民生委員の皆様と狩野川漁協の皆様との協力で実施した「アマゴの放流体験」です。昨年までは「鮎の放流体験」でしたが、今年には「アマゴ」を放流しました。

これは、鮎は放流するとほぼ1年で絶えてしまうのに比べて、アマゴは地元の川で繁殖する可能性が大きいということからだそうです。SDGsの目標にもピッタリと当てはまる活動です。とは言っても、堤防から河川敷に降りる階段は民生委員の皆様の特製手作り階段であったり、バケツの中には丁寧に育てられたアマゴがどの子にも触れられるように十分多く準備されていたりとお膳立てがバッチリとされていて、子どもたちにはとても「おいしい」体験活動です。

中伊豆ならではの地域の方々の温かなふれ合いを通して、見守られていることの安心感や地域への愛着心を子どもたち一人一人が育んでいくことと考えます。子どもたちも放流したアマゴのように、地域にしっかりと根付いて成長していくと期待しています。



なかいず認定こども園

令和
3年度

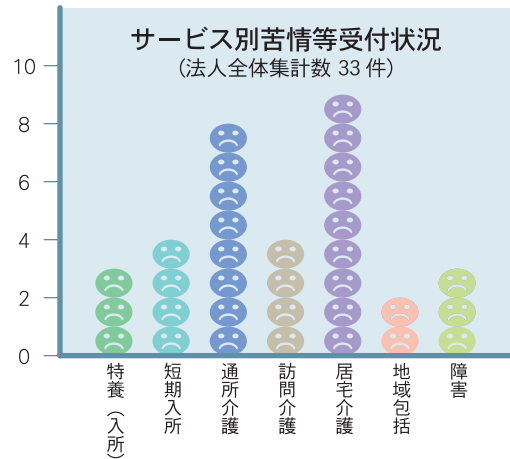
苦情・要望等受付状況報告

コミュニケーション
こそが一番大事!!

令和3年度の法人の各施設に寄せられた要望・意見や苦情等は、法人全体で33件ありました。

特養では、コロナ禍により家族面会等を一部制限させていただきましたが、ご家族からの苦情はなかった状況です。しかし、通所サービスや訪問サービス、ケアマネジャー等の在宅サービスに対する苦情やご意見を多くいただきました。その大半は相互の情報共有不足によるボタンの掛け違いや感情の行き違いによる苦情であると思えます。利用者ご本人とのコミュニケーションを図ることは大事ですが、ご家族とコミュニケーションも十分に図り、課題を共有して意見交換をすることで、多くの苦情・要望は未然に問題化を防ぐことが出来たのではないかと思います。私たちが専門職として利用者に寄り添い、利用者やご家族の抱える先が見えない不安を理解し、明るい声掛け、明るいふれあいの中から、明かりが見えるような支援を心掛けて

行くことで、少しでも苦情・要望を無くしていけると思います。利用者・ご家族との信頼関係構築に向けてこれからも取り組んで参ります。



社会福祉法人
春風会

Instagram & Facebook ただいま公開中

春風会では以前から広報誌やホームページで情報公開を行っていましたが、福祉の魅力発信には多くの課題を抱えていました。福祉・介護の現場はたくさんの笑顔や魅力で溢れています。各施設からインスタグラムを通じて、利用者さまの普段の様子や働く職員の姿、施設の行事まで、たくさんの写真を投稿し、福祉の魅力を発信していきます。みなさんのいいね！フォローお待ちしております。



- 春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム
〒410-0302 沼津市東榎路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297
- 特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511
- 特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東榎路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511
- ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380
- 天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽根47
TEL (0558) 87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723
- ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385
- 小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
〒410-0302 沼津市東榎路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299
- 障害サービス ケアホーム などの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL・FAX (0558) 77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL・FAX (0558) 77-1221
- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408 1
- あまぎ認定こども園
TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880
- あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201
- プラムカフェ
TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2414 伊豆市本立野531-1
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302
- なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811
- はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町2-7-11
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334